

# 117期通信

北海道小樽潮陵高等学校3学年通信  
令和4年6月14日(火)発行 第4号  
潮陵3学年団

## ☆「2022年度 第1回大学入試情報分析会」参加レポート

6/9(木)に上記分析会に出席してきました。この分析会は、2022年度入試のデータ(全国約40万人分)を分析(各大学の合格者や志願者数の変化など)することで、**君たちが受験する2023年度入試**がどのような特徴になるのかを予測し、この情報を各高等学校の先生方に提供することを目的に開かれています。この分析会は全道6カ所で開催されており、私が出席した札幌会場では、札幌市内の高校の先生方など100人以上が出席していました。来場していた先生方は皆真剣な眼差しで聴講し必死にメモをとっていました。他校(ライバル校)の先生方の受験(生徒)への熱い思いを垣間見た瞬間であると同時に、一筋縄にはいかない大学受験が刻一刻と迫っていることも痛切に感じました(私自身も刺激を受けました)。この分析会の「参加レポート」を以下に記載します。ご参考にどうぞ。 ※ここには書ききれなかったので聞きたいことがあれば個別に聞きにきて!

### <全国版>

- 2022年度入試は浪人生が減った関係で競争が緩和した。これは2023年度入試も同様になる可能性が高く、2023年度入試は現役生中心の戦いになることが予想される。【高3生には追い風!】
- 2022年度入試は推薦及び総合型での出願者数は伸びていない。これは、コロナの影響により推薦受験で使えるネタがないことも要因の1つ。【コロナ直撃の我が学年の入試も同様か】
- 18歳人口は減っているため単純に大学への志願者も減っている。さらに募集定員は変わっていないので、国公立大学であっても競争緩和が見られる。【5年前と比べて10%も志願者数が減】
- 初志貫徹組(リサーチに書いた大学と同じ大学に出願)の合格率が年々上昇。【個の意志は大切】
- 医学部医学科で、SS60~65の層の合格者が上昇。【医・医であっても競争緩和。あきらめない!】
- 難関大は強気の出願が目立つ。北大で出願者前年比106%。東大でも105%であり4年ぶりに志願者が増えている。【東大であっても現役対現役の様相が強いため多くの受験生は強気の出願】
- コロナの影響で2021年度入試は地元志向と首都圏を敬遠する傾向が強かったが、2022年度入試では首都圏の大学を志望した割合が増加し地元志向に緩みが出ている。【全国目線での出願にシフトか】
- 関東の有名私大であっても競争は緩和している。この5年間でSS65,SS60,SS55のどの層を見ても合格率が上がっている。さらに、例えば早稲田大学では合格者数が前年比で103%など、合格者数そのものも増えている。【私大出願を考えている人は1ランク上の大学に挑戦しても……】
- 英検(準1級、2級)などを持っているると有利になる私大が増えた。【募集要項の確認をしっかりと】
- 千葉工大など共通テスト方式の受験料が無料の大学がある。【しかし合格者数も増加し倍率はダウン】
- 情報分野の人材需要を背景に、一橋大学、名古屋市立大学にデータサイエンス学部が新設された(他にも学部学科の新設が多数)。また後期日程の廃止や復活など入試の変更も。【昨年と同じとは限らない】

### <北海道版>

- 北海道大学の難易度の変化はない。例年通りだがやはり2次試験での出来が合否を分ける。また、前期後期通して同じ学科に出願する受験生が前年比で119%であり、北大出願者も強気かつ初志貫徹者が年々増加傾向。【大学入試全般は競争緩和であるものの、北大に関しては変わらず難関です……】
- 北海道教育大学は3年連続で出願者が減っている。よって今どんな状況であったとしても挫けずに頑張れば光明が差す可能性大。また、今年度から志望理由書があるので早めの準備を。【後期まで粘り強く!】
- 旭川大学が2年後公立化する可能性が高い。つまり、来春旭川大学に入学すると2年生から公立大学の学生になる可能性が高い。この動きによって旭大はもちろん他の大学にも影響がでてくる。

まとめると、競争が緩和されたことから大学には入りやすくなってきています。だからこそ原則、「**第一志望で勝負**」し、「**行ける大学ではなく行きたい大学**」を目指そう!最後の最後まで粘り強く!あきらめず!

